岩手県の土地改良

2010(2月号)No.550

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会　盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200　FAX(盛岡)019(631)3260
■編集発行人／川端　賢治　■印刷所／永代印刷株式会社
http://www.iwatochi.com

水土里ネット いわて

CONTENTS

●平成21年度水土里ネット役員研修会実施 ……2
●農業集落排水事業「八重畑浄化センター」が完成 ……3
●平成21年度　農地連担化促進研修会が開催される …4
●田沼斉氏旭日双光章受章 ……4
●疏水紀行 ……5
●土地改良相談Q&A ……6

牧畜と雑穀の町軽米　平成21年度絵画コンクール 中学校の部銀賞

平成21年度水土里ネット役員研修会実施

▶維持管理計画の整備推進などについて研修

1月27～28日の両日、水土里ネットいわてでは、花巻市「ホテル千秋閣」において水土里ネット役員研修会を開催した。

本研修会は土地改良区の管理運営基盤の強化を図ることを目的に毎年開催されているもので、今年度は約290名が参加した。

【挨拶を述べる舘澤会長】

研修に先立ち、挨拶に立った本会の舘澤宏邦会長は「今回の研修会で研修した内容を、土地改良区の運営の強化と出席各位の資質の向上の一助として欲しい」と述べた。

研修では福田芳雄東北農政局農村計画部土地改良管理課課長補佐が、土地改良区の理事・監事の地位と職務について説明した後、不祥事件の全国での事例を挙げながら、未然に防止する方法として会計処理や通帳を複数でチェックすることなどの必要性を訴えた。

続いて川村進一岩手県農林水産部農村計画課主任は、各土地改良区共通の課題である未収賦課金解消に向けた土地改良区支援の推進方針と、維持管理計画書の整備の必要性等を述べた。

初日の最後には沼崎光宏岩手県農林水産部農村建設課総括課長が、農業農村整備事業の今の状況を説明した後、今後は農業農村整備事業の効果効用を地元から積極的にアピールする必要があると述べ、参加者の共感を呼んでいた。

研修二日目は、鈴木宣弘東京大学大学院農学国際専攻教授が、自身の農林水産省職員時の経験や豊富な知識に基づき、日本の農産物関税が高いという認識は誤りであることなど貴重な情報を交えながら説明を行なった。

出席者からは「運営をしていくうえで参考になった」「鈴木教授の講演に元気をもらった」など意見が出され、充実した研修となった。

【鈴木教授の講演】

平成21年度水土里ネット役員研修会カリキュラム

標　題	講　師
土地改良区の理事・監事の役割 ―土地改良区運営とコンプライアンス―	東北農政局農村計画部 土地改良管理課 課長補佐　福田芳雄氏
土地改良区の財政運営基盤の強化に向けて ～未収賦課金解消に向けた取組と 維持管理計画の整備推進～	岩手県農林水産部 農村計画課 主任　川村進一氏
土地改良事業の削減は“やむを得ない”のか	岩手県農林水産部農村計画課 総括課長　沼崎光宏氏
食料危機の教訓をどう活かすか	東京大学大学院 農学国際専攻教授　鈴木宣弘氏

農業集落排水事業「八重畑浄化センター」が完成

▶八重畑浄化センター通水式

花巻市は、2月1日花巻市八重畑において、平成15年度から進められている農業集落排水事業八重畑地区の処理場が完成したことをうけ、八重畑浄化センターで通水式を行った。

通水式では、花巻市長、花巻市議会議長、県南広域振興局花巻総合支局土木部長、八重畑地区農業集落排水事業推進委員長など約40名が出席し、神事が厳かに行われた後、大石満雄花巻市長が浄化センター管理塔内でスイッチを入れ通水を開始した。

これにより、八重畑地区4集落約170世帯の供用が可能となり、し尿や生活雑排水等の処理を行い農業用水の水質保全と生活環境の向上が図られることになる。

平成21年度　農地連担化促進研修会が開催される

▶農地利用集積等の推進役の能力向上を図る

水土里ネットいわてでは、1月21～22日にかけて、花巻温泉「ホテル花巻」において、平成21年度農地連担化促進研修会を開催し、改良区職員及び換地委員約100名が、換地選定を通じた農地利用集積を推進するため、知識や能力等の向上を図った。

初日の研修では、前川英樹東北農政局土地改良管理課農地集団化指導官が「換地と利用権の一体的推進について」と題し、農地利用集積計画作成申出制度の積極的な活用を促した。続いて中野清人農事組合法人二子中央営農組合代表理事より「法人化と地域営農」について、事例発表が行われ、組合設立や組合から法人化した経緯について説明がなされた。

翌日は、實井正樹県農林水産部農村建設課技術主幹兼農地整備担当課長が「農業農村整備を巡る最近の農業情勢について」と題し、国の来年度予算の概算と県の今年度の農業農村整備事業の取組等について述べた。

続いて根澤將次雫石町片子沢営農組合代表組合長は「集落営農への取組」について事例発表を行い、営農組合の成り立ちや、経営活動状況について説明した。

参加者達は、換地推進のための知識と方法について学び理解を深めていた。

田沼斉氏旭日双光章受章

越前堰土地改良区理事長、岩手山麓土地改良区連合理事長で本連合会副会長である田沼斉氏が、長年の土地改良事業の功績を称えられ旭日双光章を受章された。

田沼氏は、越前堰土地改良区理事、理事長、岩手山麓土地改良区連合理事、理事長あわせて35年以上務めるとともに、平成8年には本連合会の理事にも就任し、現在に至っている。

土地改良区の組織体制の充実と運営基盤の強化を図るため、岩手県と本連合会で構成する岩手県土地改良区統合整備推進協議会の委員として第7次統合整備基本計画の策定に尽力し、3件のべ7土地改良区統合整備を達成するとともに、残る土地改良区の統合にも道筋を示した事なども認められた。

いわて疏水紀行 シリーズ⑩

「岩手県の土地改良」では、県内の疏水の歴史や疏水を通じ活動を展開する水土里ネットをシリーズで掲載しております。

10回目となる今回は、現在の花巻地域の開田と水不足を解消するために開削された「新田堰」を紹介します。

イーハトーヴはこの流れのもとに

［新田堰］

天和・貞享年間に開削された「新田堰」

花巻地方の新田開発は天和・貞享年間（1681～1688）頃、盛んに行われた。主なものは、高松村新田(1677～)、二枚橋新田（1681～)、鍋倉新田（1681～）などがある。また、新田開発とともに、水稲の生産性を上げるために、ため池の築造や用水路の開削などに力を注がれ、その中のひとつが新田堰である。

「湯口村誌」によると新田堰の開削者には二つの説がある。

ひとつは、奥寺八佐エ門であったという説だ。奥寺氏は村崎野の開田を完成させたあと、その経験と技術をかわれ、この大工事に取り組んだと思われる。氏は全工程を三つに分け、入口と出口の両方からそれぞれ五十人ずつ、計三百人が一昼夜交替で、完成まで三年半を要したと伝えられている。

二つ目は、花巻藩士　伊藤　久慶が開削したという説だ。

旧湯口村、万丁目村、円万寺村を領地として拝領。「円万寺は水利に乏しきを以て　正徳の末年　穴堰開削の工事に着手し元文の初年に竣工せしものなり、その間二十余年、重に領内の百姓を使役せしも　その工事極めて困難にして　人心倦怠中止せんとせし事数次」と書かれている資料もあるが、未だ確証はつかめていない。

社会科見学や憩いの場 新田堰頭首工

以前の新田堰頭首工は老朽化が著しかったため、平成11年に農業用河川工作物応急対策事業に着手。5年の歳月をかけて全面改修し、新たにラバーダムを有する頭首工へと生まれ変わった。

本頭首工は、農業用水の他に上水道の取水源で、市内小学生の社会科見学ルートにも組み込まれている。

頭首工のすぐ上流には、温泉施設があり、夏の暑い時期には涼を求め、頭首工脇の川縁を散歩する観光客の姿が見られるなど、憩いの場となっている。

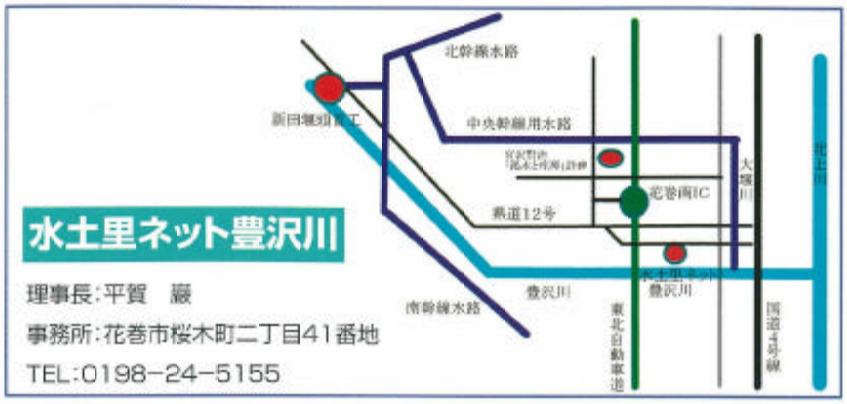
豊沢ダムの水源涵養林で水源保全を啓発

花巻市水道事業所、宮城県　石巻地方広域水道企業団と　豊沢川土地改良区は、豊沢ダム上流部の水源涵養林育成を目的として、ブナやニレなど広葉樹の苗を植栽している。これは毎年6月の「水道週間」にあわせて行われているもので、市内小学校や石巻地方の児童と保護者など約200名が参加している。

また植栽のほかに、ヤマメやイワナの稚魚放流も行い、生物と人間の生活を支える水について理解を深めるのが狙いで行われている。

ヤマメやイワナの稚魚放流

ブナや、ニレの植栽



水土里ネット豊沢川

理事長：平賀　巌

事務所：花巻市桜木町二丁目41番地

TEL：0198-24-5155

土　地　改　良　相　談　Q　&　A

Q　農業農村整備事業に関連して算出される地方交付税は、地方公共団体において農業農村整備事業の予算として充当されているのでしょうか。

A　地方交付税法第３条３項において、使途制限の禁止条項が定められています。
　いったん交付された地方交付税をどのような使途に充てるかは地方団体の自由にゆだねられており、国は、地方自治の本旨を尊重し、これに条件をつけ、又は使途を制限してはならないものとされています。

土地改良相談事例集を作成しました

会員の方々には発送させていただいております。ご活用下さい。

水土里ネットいわて　今後の行事予定

3月4日㈭	県議会議員クラブ研究会
3月12日㈮	管理指導推進・換地促進委員会
3月23日㈫	第52回通常総会
3月25日㈭	農地・水・環境保全向上対策協議会総会